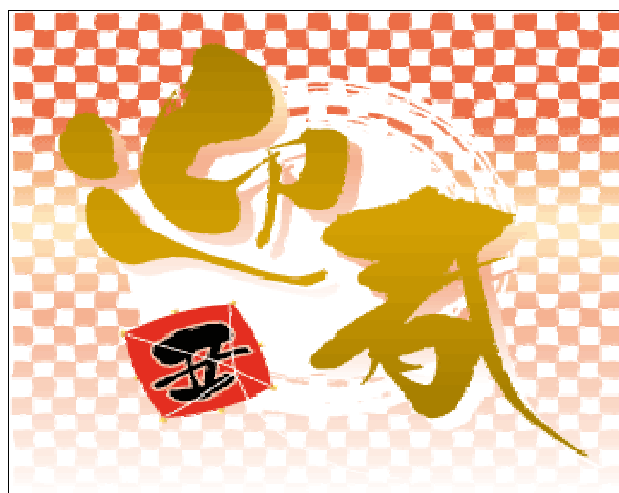




フェローシップ・ニュース

NO.32号



新年明けまして おめでとうございます！

私は昨年12月24日夜、四ッ谷の麹町にある教会に行きました。例年なら大混雑しているクリスマス・イブの11時、集まっている人たちのほとんどが在日外国人でした。日本人の文化には、苦しんでいる他者のために祈ったり、慈しむ習慣がなくなっている。そんな感じがしてとても悲しくなりました。

74年前アメリカの東海岸でAA（無名のアルコール依存者の集まり）が誕生したのは、現在の日本と同じ状況の時代でした。アメリカの大恐慌。自殺者が、ウォール街には多数の失業者が、犯罪者が増えました。そのような時期、1935年6月、株主仲買人のビル・Wとドクター・ボブが出会いました。彼らはどうしようもないアル中でした。一人のアル中がもう一人のアル中と出会うことで霊的な体験をしたのです。

そして現在、日本における依存症の多くのグループはAAの12ステップを元に作られています。12ステップは全世界に奇跡をもたらしています。

私たちは毎日自分の為に祈ります。自分以外の人たちが幸せで豊かな心を持ち続けてゆくためにも、2009年アパリを含む全共同体の皆さま、アパリを支援して下さっている恩人の皆さま、一緒に祈りましょう。

神さま、私にお与え下さい。
自分に変えられないものを
受け入れる落ち着きを
変えられるものは
変えていく勇気を
そして、二つのものを
見分ける賢さを

近藤 恒夫

特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディク
ション研究所

発行日
2009年1月1日

APARIとは、
アジア太平洋地域
アディクション研
究所 (Asia-Pacific
Addiction Research
Institute)の略称で
す。

全国のDARCやMACの
各施設、福祉・教
育・医療・司法関
係者と連携しなが
ら、依存症から回
復しようとする
方々を支援してい
るシンクタンクで
す。

目次：

新年のご挨拶… 近藤恒夫	1
最近の大麻報道について 考える…尾田真言	2
薬物依存症と家族の対応 について…町田政明	3
依存症と発達障害… 中村努	4 5
入寮者からのメッセー ジ…イケ	6
藤岡ニュース! 東京本部より 「赤い糸」感想…尾田	7
アパリからのお知らせ	8

最近の大麻報道について考える

事務局長 尾田 真言

昨年から、大麻の自己使用事犯の逮捕事件が実名報道されるようになり、にわかに大麻問題が社会問題化してきています。

しかしながら日本の薬物事犯でもっとも検挙者数が多いのは依然として覚せい剤事犯者です。下表の「逮捕記事数」の部分は、2000年1月1日から2008年12月5日までの毎日新聞の記事の見出しにおいて、「大麻」と「逮捕」が両方含まれる数と「覚せい剤」と「逮捕」が両方が含まれる数の推移を示すものです。2008年に初めて、大麻報道の件数の方が多くなりました。東京、大阪など大都市では、これまで違法薬物の自己使用ならびに自己使用目的での所持等は、ほとんど報道されてこなかったのですが、相撲界の大麻疑惑に端を発して、突然、大学生の逮捕者名が報道されるようになってきています。

年度	検挙人員		押収量		逮捕記事数	
	大麻(人)	覚せい剤(人)	大麻(Kg)	覚せい剤(Kg)	大麻(記事数)	覚せい剤(記事数)
2000	1,224	19,156	591	1,032	69	253
2001	1,525	18,110	995	419	92	236
2002	1,873	16,964	621	442	90	173
2003	2,173	14,797	932	487	109	145
2004	2,312	12,397	1,055	412	105	118
2005	2,063	13,549	972	123	101	159
2006	2,423	11,821	421	144	79	130
2007	2,375	12,211	624	359	107	166
2008	約2,100				166	137

2008年の検挙人員は2008年10月31日まで
(毎日新聞記事データベースならびに平成20年版犯罪白書から作成)

取締機関のこうした対応によって、おそらく、これまで遊びで乱用していた学生たちは、実名報道されて退学になるのでは割に合わないと考えて、使うのをやめたり、あるいは、使っていた人もあわてて使用をやめたりしようとするでしょう。その意味では絶大な一般予防効果が出ているものと思われます。

しかし、すでに薬物依存症になってしまっている人たちにとっては、割に合わないと思っても、もはや自分の意志では止めることができなくなっているのですから、厳罰化政策を採用するだけでは、社会から排除されてますます生活環境が悪化していきます。

大学側の対応としては、学長名で学生に薬物に手を出さないように通知したり、せいぜい薬害教育の講義をする程度のことで、逮捕者はすぐに退学処分になってしまい、ひとたび大麻を乱用して検挙された者に対する再発予防教育をしているところは皆無です。

これでは大学が教育責任を放棄しているとしかいえません。せっかく、大麻を乱用していることが明らかになったのですから、大学側で再発防止プログラムを用意して、プログラムの全過程を修了した学生に対しては、復学を認めるべきであると考えます。また、そうでもしなければ退学になった学生はおそらく何の再発防止プログラムにも参加しないでしょうし、友人を誘うなどしてますます薬物の害悪を拡散させる側に回ります。

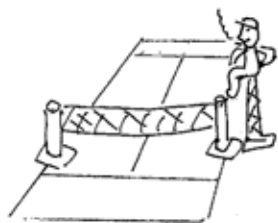
一方、刑事裁判においては、大麻所持事件の初犯者に対しては、1g以下の微量所持者の場合は、懲役6月執行猶予3年が言い渡されています。平成19年度には日本全国の地裁で大麻事犯の27.8%は即決裁判手続で処理されていました。逮捕されて1ヶ月程度で、執行猶予になることがわかっている裁判を経て、単純執行猶予付き判決が言い渡されて釈放されます。特に東京地裁は即決裁判が行われる比率が他の地裁に比べて高く、公判請求事件全体に占める即決裁判の割合が、全国平均で6%であるのに対して、16.7%となっています。即決裁判の場合は、逮捕から1ヶ月程度で執行猶予が付いて釈放されます。かねてより、私は薬物事犯者が即決裁判手続で処理されることに疑問を持っていました。せっかく逮捕されたのに、最も薬物の使用欲求が入る時期に社会に出されてしまう制度だからです。

アパリでは初犯者を対象とした薬物再乱用防止プログラムを用意していますので、大学等から依頼があれば、いつでも対応可能です。そのときには大麻、覚せい剤、MDMA、コカイン、ヘロイン等の違法薬物が数分で検出可能な、簡易唾液検査キットを毎回使用して、クリーンであることを確認しながらミーティングに参加してもらうことができます。違法薬物の反応が出た場合には、さらに本格的な治療プログラムへの参加を勧めます。秘密厳守で一切口外しないことを約束しますので、どうぞご利用下さい。

吸い放題!

By サム

テニスプレイヤー



スモウレスター



オペラにも



家族のための連続講座

薬物依存症と家族の対応について(9)
「共依存と境界線」

カウンセラー 町田政明

共依存は自分と相手との境界線がおかしくなっている状態だといえます。相手と自分の境界線が無くなり、一体化しているともいえます。共依存を境界線という視点から考えてみて、どうしてそのようになったか、そしてどうしたら良いかを考えてみたいと思います。

境界線とは防御装置

薬物依存症が進行すると、本人一人では薬物依存ができなくなり、家族は本人と境界線をなくして、カプセル状態になって本人の病気を支えて進行させることとなります。

家族がこのカプセルに入って手助けしてしまうのは、本人がこのままでは犯罪をして警察のお世話になるのではないかと、離婚してしまうのではないかと、仕事を失ってしまうのではないかと、借金が溜まってどうにもならなくなってしまうのではないかなどの恐れから、本人の問題に境界線を越えて背負ってしまうからではないでしょうか。

このように境界線の越境は、家族や本人が脅かされたと思った結果、反応したためと考えられます。人の境界線を越えるのがパターンの体質を持っている人もいます。いわゆる余計なお節介や口出しが自分の癖になっている人々です。

境界線とは、敵から自分を守るような防御装置のようなもので、自分の家を守る壁や門のようなものです。自分が不快だと思ったら門を閉めて壁を高くして入れないようにするのです。防御装置で大切なのは、自分が不快か快かという自分の感情です。

境界線の形成

境界線で大切なのは自分の感情です。感情が育っていないと境界線を育てることはできません。

赤ちゃんがオギャーと生まれた時には、自分と母との境界線はなく一体化していますが、だんだんと大きくなるにつれ、母でも時には自分の欲求を全てかなえてもらえる存在ではないと気づくようになり、他者の存在をはじめて認識するようになります。

子供の頃から、母、父、兄弟、友人など他人とぶつかりながら生の人間関係を練習して、他人と自分は違うと感じるようになり、境界線というものを育てていくこととなります。

共依存の境界線のルーツ

子供時代に境界線をうまく育てられなかった人々がいます。親に依存の問題があったり、虐待や支配、兄弟との比較など、いわゆる機能不全家族で育った子供は、親から境界線を侵入され、境界線を育てることができません。

親に支配されると、自分の感情を出せなくなり、息苦しくなります。息苦しくても子供はそこでしか生きられません。侵入され支配された環境の中で正直な自分の感情が分からなくなります。

境界線を育てる

子供時代に仕方なく学んできた人間関係のパターンが、境界線をなくしてきたのであり、過去に引きずられない自分、「新しい自分」を育てていくしかありません。

人は自分の事は自分で責任を持つことができますが、他人の事は責任を持つことができません。共依存の人は、人の責任を取ろうとしますが、自分の問題や責任には目が行きません。

他人を変えることは出来ないのです。変えられるのは自分だけです。他人に対して無力であるということを認めないといけません。自助グループでいう第1ステップです。

境界線である自分を守るための防衛装置である門と壁は、自分の感情を土台として作られます。「自分がどうしたいか？」が基本です。

しかし、境界線がない人は、相手にどう思われるかを優先して考え、相手に依存しています。自分の感情に正直になり、主体的に生きることが、境界線を育てることとなります。自分の思うとおりにコントロールして、壁を高くしたり低くしたり、門を開いたり閉じたりします。防衛装置を働かせるためには、感情という感知器を使い、主体的に行動することが必要となります。

境界線がない人は、自分の感情に気がつかない人が多くいます。感情に気がつくにも練習が必要です。口ではなんでもないといいながら、顔が引きつっているとか、モヤモヤとか、息苦しいとか、負の感情を自分の身体が発していると思います。まずその身体の声に耳を傾けてみてください。感情にはワクワクドキドキなど正の感情もあります。負の感情、正の感情にしる、その時は身体の中のどこかが変化していると思います。息苦しい時は、胸がつまるような感じや痛くなる感じがあり、ワクワクドキドキの時には、心臓の鼓動が早くなったり顔が紅潮したりしていると思います。ちょっと立ち止まり、この息苦しさはなんだろうと考えてみてください。結構あることですが、息苦しさは実は過去に母に言われて支配された息苦しさだったりします。その時は過去と現在を切り離して考えてください。練習ですから練習を重ねるうちにだんだんと自分の感情に気がつき、うまく付き合うことができるようになります。

そのような練習を重ねてくるとだんだんと「反応」でなくて、ちょっと一息入れるなどして考えて、「応答」できるようになります。そうすると昔のパターンにならなくなってきます。

練習を重ね、いつも自分が主体となって壁や門を動かすことが、境界線を育てていくこととなります。

境界線ができて初めて自分も他人も大切に思え、真の愛情ある人間関係ができるようになると思います。

家族の体験記
好評販売中！

ギャンブル依存症に悩む
家族の物語
～絶望から希望へ～

この本には、ギャンブル依存症で悩む8人の家族の体験が綴られています。これは真実の物語です。家族の貴重な体験を知ることができる貴重な一冊です。

定価：1,000円
発行：ホープヒル
(アパリで販売中)

依存症と発達障害

－ 発達障害と向き合ってきたこと －

NPO法人ワンダーポート施設長 中村 努

依存症？、それとも発達障害？

ギャンブルの問題を持つ当人は30歳。高校卒業後、親の勧めで自衛隊に入隊。1年後、パチンコにはまり多額の借金を作り、実家に戻る。その後、いくつかの仕事に就くが長続きしない。給料をもらおうとパチンコに使ってしまう。家にお金を入れたことはない。1年間のうち半年は仕事をしているが、お金がないときは部屋に引きこもってゲームをしている。中学のときはイジメに遭っていた。

この事例は、ワンダーポートへの家族からの電話相談の一つの典型例です。2～3年前までは、本人はギャンブル依存症、親は共依存ととらえ、「ご両親が世話を焼きすぎるから、息子さんは自立しないんですよ」と答えていたと思います。しかし、現在このようなケースの方にはワンダーポートを利用するしないにかかわらず、発達障害の評価を受けることを勧めています。自己決定能力が乏しい人や、ギャンブルをやる前に不適応があった人には依存の背景に発達障害を持っている人がいることが、ワンダーポートの経験からわかってきたからです。とくに、パチンコやパチスロはアスペルガー障害や自閉性障害を持つ人に親和性があるように思います。

発達障害は2000年くらいから社会的な関心が高まってきています。2005年には発達障害支援法が施行されましたが、おもに子どもに対する支援であり、成人に達している人では発達障害の評価を受けている人は稀です。したがって、成人に達している人が、発達の問題を持っていて、違和感を抱えつつも、それに気付いていない人は少なくないと思います。発達障害の特性としての場の空気が読めないことや、仕事がうまくできないという問題を持つ人が、その生きにくさを埋めるために特定の行為や物質に「のめり込み」やすいことは想像に難くありません。また、障害の特性である反復行為や常同性が、パチンコ遊技に合致してしまうように思います。

有効な支援 個人的なかかわり

ワンダーポートで発達障害の概念を意識しはじめたのは2005年頃からです。発達障害を知ってから、私たちは「底をついていない」「本人にやる気がない」という言葉を使うことがほとんどなくなりました。この1～2年でワンダーポートでの支援活動は劇的に変わりました。

私たちが発達障害を持つ人への支援で大切にしていることが3つあります。個人的なかかわり、診断、発達障害を持つ人だけのミーティングです。ワンダーポートでは、インテークのときに、ギャンブルをやる前から困っていることがあれば詳しく聞きます。子どものころから得意だったこと、苦手だったことを聞き、必要と判断した場合は小中学校の成績表を提出してもらいます。もし、その人にギャンブルをやる前からの困り事があれば、こうした課題にも向き合っていくことを提案します。一口に発達障害と言っても、困っていることは人それぞれなので、個人的なかかわりが不可欠です。また、発達障害を持つ人は、新しい生活に順応するのに苦労するので、初期の段階での気遣いも大切にしています。

有効な支援 診断

利用開始1か月くらいしてもミーティングで話をすることに慣れなかったり、対人関係の不安が軽減されないときは、診断を勧めます。評価は大人の発達障害を診断している医療機関との連携があることで、ワンダーポートではスムーズに診断を受けることができます。受診に際しては本人の意思を尊重しますが、積極的に受診を希望する人が5割、仕方なくという人が4割、拒否する人が1割くらいの比率です。診断（評価）を受ける理由はその人の苦手な部分と、得意な部分を知ることができます。今後、どういう仕事が向いているか、日常生活で注意することなどもわかります。診断名をつけることが目的ではありません。課題や苦手なことを知ること、自分では気付かなかった長所を知ることができるので、仕方なく受診した人でも、診断結果を見たときに、行ってよかったと変化する人のほうが多いようです。

診断を受ける意味はもう一つあります。私たちがアディクションという見立てで支援することが正しいのかを評価してもらうためです。先日、アパリとの司法サポートでワンダーポートに入所したAさん39歳は義務教育は普通級で、高校が最終学歴でした。独り暮らしをして仕事もきちんとやっていました。ただ、パチンコなどが原因で借金をし、自己破産をするなど、「依存」の問題を持っていました。犯罪歴は今回含め前科3犯でした。その中にはトイレの覗きという性的事犯も含まれています。

Aさんは、釈放後ワンダーポート利用開始と同時に専門の医療機関で受診してもらいましたが、IQ49の中度の知的障害と診断されました。知的障害に起因する依存問題だったわけです。おそらく、Aさんは次のようなパターンで犯罪に手を染めていたのだと思います。知的障害に起因した衝動機能抑制の問題からのギャンブル お金がなくなる 困る 自分より力の弱い女性の財布を盗ろうとして追う 女性がトイレに入る 逮捕。

今回の裁判時にはトイレまで女性を追いかけたということと、「性的欲求があったのではいか」と追及され、「そうです」と答えてしまいました。おそらく、質問の意味がわからなかったか、説明に窮してそのように答えてしまったのかと思います。

**日本ダルク
公開シンポジウム
DVD販売中！
『日本版ドラッグ・
コートの提案』
-新たな改革の可能性を
探る- 08.06.13**



**受刑経験のある8名の体験談や公開シンポジウムの全てが収録されています！
(5時間30分)**

1枚 2,500円
FAX : 03-5830-1791
メール: info@apari.jp
ご希望の方はご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

Aさん自身やご家族も幼少期から他の人についていけなかったことなど苦労したことを認識していたため、診断結果には納得していました。長期的視野で考えると、療育手帳を取得し、知的障害者のための社会資源につなげることがAさんのためになると考え、ワンダーポートの利用は診断結果が出た時点で終わりました。ワンダーポートにはAさんのように依存の問題ととらえない方がいいと思う利用希望者もいます。発達障害の診断は支援の方向を決めるためにも必要だと思います。

有効な支援 ミーティング

発達障害を持つ人はほぼ例外なく対人関係に問題があります。でも、対人関係を持つことを望んでいます。決して人嫌いではありません。発達障害を持つ人にもミーティングは有効だと思います。慎重さは必要ですが、回復のための柱になると思います。ただし、依存症に焦点を当てた従来のミーティングが合うとは限りません。発達障害を持つ人のハマり方とそうでない人のハマり方に違いがあるからです。例えば、普通の病的ギャンブラーは、やめようと思っても、突然気が変わってやってしまうということがよくあります。ところが、自閉性障害に起因する依存は、衝動的にやってしまうことはあまりありません。また、やめようと思うこと自体が少ないなど、ハマり方に違いがあります。視覚優位性や自閉的認知特性を持つ人には、言いつばなし、聞きつばなしのスタイル自体も合わないと思います。

ワンダーポートではこうした発達障害の特性に配慮したミーティング「はっぴいたあん」を開いています。参加者は依存の問題と発達障害やその傾向を併せ持つ人です。開始して、1年が経過していますが、たいへんうまく機能しています。当初発達障害を持つ人は、共感する力に課題があると思っていましたが、それは誤りであったこともわかりました。共感し、お互いを尊重する雰囲気は、ワンダーポートの通常のミーティングを超えていると思うくらいです。発達障害の人は必ずしも能力が低いというわけではありません。「はっぴいたあん」の参加者にはIQが120を超えている人もいます。ただ、能力にばらつきがあることで、実力を発揮できないのです。発達障害を持つ人は、自分の評価を能力の低い部分に合わせてしまうので、自尊心が持てないと言われていています。いつも、「少数派」で苦しんできた彼らが、「多数派」となれるミーティングで共感することは、自信を取り戻すきっかけにもなると思います。

依存症も発達障害も安易なラベリングは禁物です

「依存症は病気だから...」「依存症の人だから...」というように、何かにはまっていればアディクションアプローチの中にはめ込もうとする傾向が当たり前のようになっていることを危険に思うことがあります。発達障害という概念一つを知ることで、支援の多様性が必要だということがわかってきたからです。

どこまでが正常(健常)の範囲内で、どこからが問題があるかという点は、依存症も発達障害もスペクトラムであり、明確な基準があるとは思えません。診断名でその人を見るのはナンセンスです。発達障害アプローチも極端になりすぎないように注意する必要があります。ただ、回復モデルの多様性を知ること、いままでプログラムからこぼれていた人の回復支援が可能になるということは間違いありません。

2月1日(日)に、大人の発達障害を専門に診断しているランディック日本橋クリニックの林寧哲先生に講師をお願いし、「依存問題を発達障害から考える」をテーマにシンポジウムを開催いたします。皆様と意見交換できたらと考えています。ご参加をお待ちいたします。

シンポジウム 依存問題を発達障害から考える

基調講演：林寧哲氏(ランディック日本橋クリニック院長)
 パネラー：船越知行氏(目白大学教授)、高澤和彦氏(浦和まはろ相談室代表)
 日時：2009年2月1日(日)14時～16時30分
 会場：東京ウイメンズプラザ ホール 渋谷区神宮前5-53-67
 参加費：1,000円(参加申込不要)

問い合わせ：045-303-2621(ワンダーポート)
 主催：NPO法人ワンダーポート 後援：NPO法人非行克服支援センター 協力：NPO法人アパリ

ギャンブル依存と発達障害を併せ持つ方を対象としたミーティング 「はっぴいたあん」のご案内

ギャンブルの問題以外に、発達障害(AD/HDやアスペルガー症候群、学習障害など)の問題を持つ人の集まりです。診断を受けてなくても、自分にその傾向があると思っている人も対象です。ワンダーポートの通常のプログラムを利用されていない方でも参加できます。他の依存症で発達障害の問題を持つ方も歓迎いたします。

日時：毎週木曜日 19時～20時30分 会場：ワンダーポート

参加申し込み：不要 参加費：1回100円

その他：当面の間、家族や関係者の参加はご遠慮ください。

主催：NPO法人ワンダーポート : 045-303-2621

「薬物依存」 DVD販売中!

アパリが作成したDVDで本人の体験談や、近藤恒夫の話が約30分間収められています。学校での薬物乱用防止教育、行政の職員の研修で利用されています。

1枚 3,000円

FAX : 03-5830-1791

メール: info@apari.jp

ご希望の方はご住所、お名前、電話番号をご記入の上お申込下さい。

平成12年作成

アウェイキングハウス 入寮者からのメッセージ

「薬に囚われ続けた人生」

イケ

僕が最初に薬物に手を出し始めたのは11才の頃で使用薬物はシンナーでした。最初は1週間に1回位だったものがやがては毎日吸うようになり、シンナーが無いと急に怒り出したり暴れたり誰もが手を付けられない状態になっていました。そして、14才の時に初めて鑑別所に入り、保護観察処分ですることになりました。僕はその中で何も反省する事もなく外に出てから一緒に薬物をやろうとする仲間を作り、薬物の乱用が止まる事はありませんでした。そして、15才になった頃、覚醒剤と出会い使用薬物がシンナーから覚醒剤へと変わり始め、その辺りから僕の人生は転落して行った様に今は感じています。覚醒剤を手に入れるためには決して安くはないお金が必要で、そのお金を手に入れるために思いつく限りの悪事をしてきました。そうした生活が長く続く訳もなく、警察にも何度となく逮捕され、鑑別所や少年院を出たり入ったりの繰り返しでした。そういった矯正施設に入っても僕は薬を止める事は出来ませんでした。

そして、成人式を迎えたその年に覚醒剤で逮捕されることになり、懲役1年6ヶ月、執行猶予3年という刑をもらい社会に戻るわけですが、母親と妹はこんな僕の事を見放し家を出て行ってしまいました。僕は一人地元に残る事になる訳ですが、仕事もしていない住む所も無いと言う状態に追い込まれ、友人の家を転々としたり、彼女を作ってそこに転がり込むといった生活を続けていました。そんな中であつてもやはり薬物を止める事は出来ませんでした。そんな生活が3年ほど続く訳ですが、肉体的にも精神的にもとても苦しく辛いものになり始め、覚醒剤を止める決心をして地方に行ってしまった親を探し、「薬はもう絶対にやらない」という条件で何とか親元に置いてもらう事になりました。

地元を離れ右も左も分らない地方で暮らす事によって一時的に覚醒剤を止める事はできましたが、咳止め薬や病院で処方される処方薬にはまっていき、結局薬物からは逃れられませんでした。それでも生活するためにはお金が必要で薬を使いながらも、とにかく仕事をするようにはなりました。しかし、どの仕事に就いても1年ともたずに職を転々とする日々が続きました。そんな地方での暮らしが7年ほど経った時、僕は地元に戻りたくなり親元を離れ一人地元に戻りました。貯金も無く持っていたのは車1台とそれに積めるだけの衣類だけでした。そして友人の家に居候させてもらいながら何とかお金を作り、家を借り地元での生活を再スタートさせる訳ですが、そこから又覚醒剤を使用し始め、悪友たちを集め悪事を働き、そうやって集めたお金で薬を買うという悪循環の生活をしていました。当時の自分はそういった生き方しか出来ないんだと思っていましたし、それで満足だと思っていました。それから36才になった頃覚醒剤の使用で指名手配が掛かり、それから1年2ヶ月ほどの間あちこちを転々としながら警察から逃げ回っていました。

結局最後には逮捕される事になり、この時も懲役2年執行猶予5年という刑で社会に戻る事が出来、刑務所に入る事は何とか免れました。又、出て直ぐに覚醒剤を使い始めました。しかし、それから半年程経ったある日から頭が狂い始め幻聴や幻覚や妄想といったものに取り付かれ一日中独り言を言い続けたり、突然泣いてみたり怒ってみたり笑い出したり様々な奇行を繰り返す様になってしまいました。そして地元から親元へ帰る事になるのですがそういった病気が治らず精神病院に強制入院させられる事になりました。その事によってある程度病気は回復したのですが、覚醒剤精神障害と薬物依存症といった病名をもらい、その時から薬物使用を何とか止めなければと思い始め、何とかしようと努力する訳ですが、退院しては又薬を使い、そして又おかしくなって再入院ということを繰り返しました。

自分一人の力だけではどうにもならないという事に気が付き始め、病院の先生や周りの人達からダルクに行く事を勧められ、自分もその話を聞き考え抜いた上でダルクという道を選び入寮する事になったのですが、僅か一週間足らずで施設を飛び出してしまいました。そこから又もがき苦しむ生活が始まり、その苦しみから助かるにはダルク以外には無いと思い2回目の入寮を選択しました。当然最初の1~2ヶ月は離脱症状や薬の後遺症、そして薬物に対する欲求といったものに囚われ苦しい思いもしましたが、仲間の手助けがあり何とか辛い壁を乗り越えられました。薬好きでどうしようもなかった自分が、今では薬を使わずにクリーンな人生を生きていく事が出来るかもしれないという希望を持てるようになりました。

アパリ発行
「Born・Again (ボーン・アゲイン)」
体験談 販売中!

2005年5月に第2版が発売になりました。

体験談が13人分収められています。

アパリではこの本を拘置所や刑務所にいる人への差し入れ用として使っています。

定価：1,500円
(会員価格:1,000円)

お申込はメールか
ファックスで

FAX：03-5830-1791

メール：info@apari.jp

ご住所、お名前、お電話番号をご記入の上お申込下さい。

今までの人生においては薬物を一緒にやろうと言う仲間は沢山居ましたが、薬物を止めよと言う人は居ませんでした。ここに来て初めて薬を使わずに人生を楽しもうとする人々に出会いました。そんな彼らの姿が眩しくかっこよく見えました。自分一人が苦しんでいたんじゃないと実感できました。プログラムや仲間との分かち合い、日々規則正しい生活で自分は本来の元気を取り戻せたような気がします。まだまだ先は長い道のりが残っていると思いますが、今日にベストを尽くす生き方をしていきたいと思います。



藤岡ニュース！



新年明けましておめでとうございます！

山の上は霜が降り、寒さが身にしみる毎日が続いております。

さて、昨年度を振り返ると本当にたくさんの出来事がありました。まずは初めての家族会との合同フォーラムの開催、屋上のアスファルト防水の工事、外壁の塗装、藤岡の市民パレードの参加、太鼓での慰問活動等、それ以外にも仲間たちは良い、悪いを含めいろいろな事をやらせてくれて、相変わらずダルクらしい一年だったなぁと実感します。それと共にたくさんの皆様から支えられて何とか乗り切ることが出来たことに本当に感謝致します。

今年も去年までの出来事を踏まえて、経験を活かし、気持ちを新たにスタッフ一同前進して行こうと思っています。どうかこれからも私たち日本ダルク アウェイクニングハウスの活動にご支援、ご協力お願い申し上げます。

日本ダルク アウェイクニングハウス
ディレクター 山本 大



アパリ東京本部より



平素よりアパリの活動にご賛同いただきありがとうございます。

お陰様で昨年は警視庁モデル事業の実施、新事務所移転という成果に恵まれました。本年は薬物依存症者への支援、ダルクとの連携、ドラッグコート制度の研究、国際協力等の活動を通じ、更なる飛躍を目指し、スタッフ一丸となり努力してまいります。

しかし、現実的には経費削減等を行ってまいりましたが、資金繰りが大変困難となってきました。つきましては、大変恐縮ではございますが、皆様にご寄付を仰ぎたくお願いする次第でございます。成果につきましては、フェローシップニュースにて随時ご報告申し上げます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

【郵便口座】番号：00160-7-136870 アパリ東京総本部

【銀行口座】三菱東京UFJ銀行 笹塚支店 普通 0929745 名義：アパリ東京本部

アウェイクニングハウスとは振込み先が異なります。

ドラッグ・ダイヤル

最近若い人からの大麻の相談が増えています

こんな質問が多いです。
「何で大麻はダメなの？」
「どんな害があるの？」
「止めようと思うんだけどどうすればいいの？」

どうぞお気軽にご相談ください。
(プライバシーは固く守られます。)

電話相談は
月～金の10時～18時
：03-5830-1790

メールでの相談は随時受け付けています。
メール：info@apari.jp

赤い糸

アパリが依存症監修しています！

若者に大人気の携帯小説「赤い糸」の映画が12/20から上映され、フジテレビの連続ドラマが12/6から放映されています。

試写会の感想：事務局長 尾田真言

主人公の芽衣（南沢奈央さん）が可愛らしく、敦史（溝端淳平君）もかっこよくて、映像が柔らかくストーリーのテンポも心地よくて、最初から最後まで引き込まれるような映画でした。特に中高生の恋愛映画でありながら、薬物乱用の問題が乱用者本人のみならず、その家族や周辺の間人関係を破壊するなど深刻な問題を引き起こすものであることについてきちんと取り扱われている点に感銘を受けました。

特に、母親（山本未来さん）の覚せい剤依存で長年苦しんできた敦史の、「...どうせまたやるよ」「みんな、自分だけは大丈夫って思ってんだよな。信じるとか信じないとか、そんな問題じゃないんだよ。」「俺は、美亜の意志なんて関係ないって言ってんだよ。」というセリフは薬物依存症の本質を見事に描写しています。

また、母親が何度も再使用したり、ウソをついてリハビリ施設を抜け出してしまっているという設定も、作りものでないリアルさを感じます。「ダメ、ぜったい」という一次予防ではない形で、青少年に薬物乱用防止をアピールする教育的効果が期待できる初めての映画ではないでしょうか。ぜひご覧下さい。



特定非営利活動法人
アジア太平洋地域アディクション研究所

アパリ東京本部

〒110-0014
東京都台東区北上野2-2-2
電話：03-5830-1790
FAX：03-5830-1791
Email：info@apari.jp

アパリ藤岡研究センター

(運営：日本ダルク アウェイクニングハウス)
〒375-0047
群馬県藤岡市上日野2594番地
電話：0274-28-0311
FAX：0274-28-0313

【入寮条件】

- 1、薬物依存から回復・自立しようとしている本人
- 2、男性(年齢制限なし)

【入寮期間】

基本的に13ヶ月

【入寮費】

月額16万円(初回17万5千円、生活保護の方も可能)

<アパリの司法サポート>

《薬物事犯で逮捕された刑事被告人に対する支援》

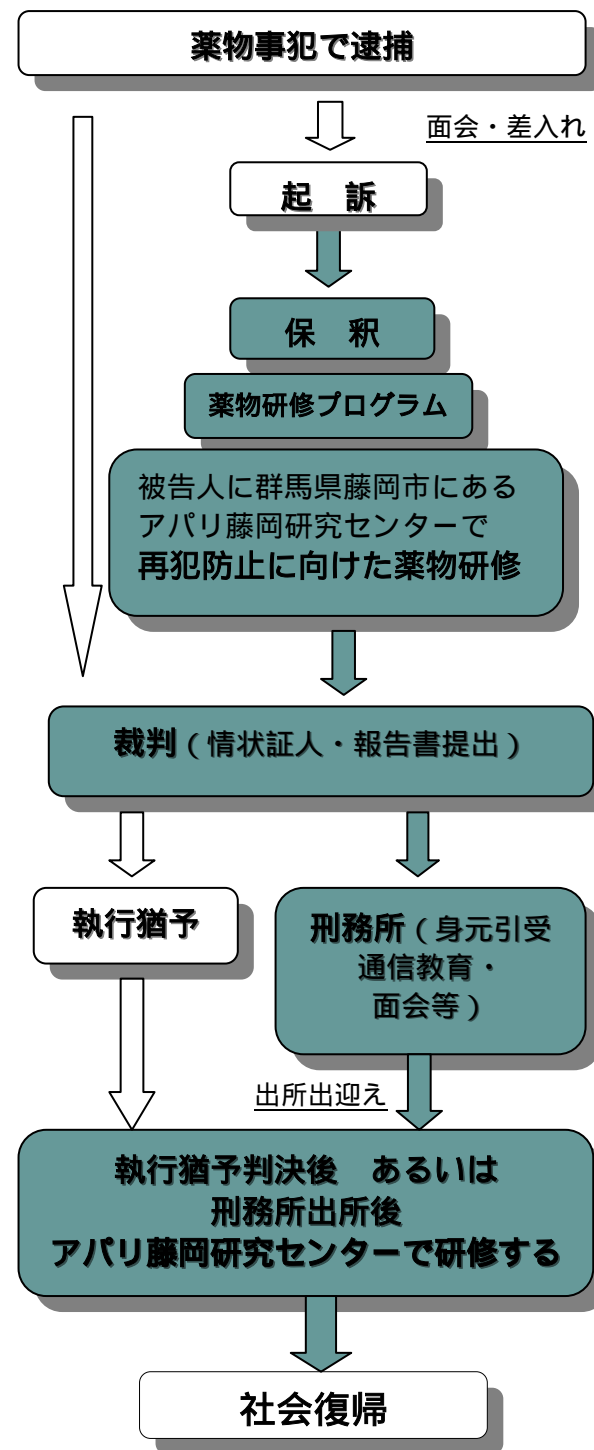
薬物犯罪で逮捕されたら刑務所に行くか、再犯防止に向けた何の取り組みもないまま執行猶予の判決をもらって、また薬物のある日常に戻るしかない日本において、**はじめて刑罰以外の再犯防止に向けた取り組みです。**

保釈中の刑事被告人に対する薬物研修プログラム、情状証人出廷、上申書作成、入寮契約、身元引受契約、出所出迎え、法律相談などあらゆるニーズにお応えします。なお、日本における薬物事犯の再犯率は50%ですが、アパリの司法サポートを利用された方の再犯率は**5%以下**です。最近では特に、**受刑中に身元引受契約をし、仮釈放又は満期釈放の時に**出迎えに行き、リハビリ施設に繋げるお手伝いをしています。

[費用：コーディネート料として一律20万円。但し、東京以外の地域は交通・宿泊費の実費が必要です]

【お問合せは東京本部まで】

アパリの支援



<家族教室>

「エクステンディッド・ファミリー・クラブ」

日時	テーマ	ファシリテーター
1/5(月)	過保護と共依存とはどう違う?	町田政明
1/19(月)	手放す	町田政明
2/2(月)	母と子の関係	町田政明
2/16(月)	家族の否認	町田政明
3/2(月)	回復とは	家族自助グループメンバー

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族、知人、友人、援助職従事者

【日時】第1・第3月曜日18:30~20:30(祝日も開催します)

【場所】アパリ・クリニック上野2階【参加費】3,000円(ご夫婦などでの参加は2名で4,000円になります)【内容】カウンセラーの町田がファシリテーターとなり家族との分かち合いを行います。法律問題については事務局長の尾田が担当します。【お問合せは東京本部まで】

<個別相談・カウンセリング>

【対象】薬物依存症などの諸問題を抱える家族・本人など 【料金】45分 9,000円
【場所】アパリ東京本部 【カウンセラー】町田政明[元神奈川県立せりがや病院勤務、ホープビル代表、寿アルク理事] 【予約】アパリ東京本部 03-5830-1790 【注意事項】当日のキャンセルや変更の場合は全額いただきます。遅れていらした場合は時間が短くなりますのでご了承ください。



ホームページもご覧ください
<http://www.apari.jp/np/>

発行者：近藤恒夫
編集責任者：志立玲子
平成21年1月1日発行
定価 1部 100円